

磐梯山の火山活動解説資料（令和6年6月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

期間外の7月3日と4日に火山性微動が観測されましたが、その他の観測データに特段の変化はありませんでした。

GNSS 連続観測で認められていた2022年後半からの山体膨張を示すわずかな変化は2023年10月頃から停滞していますが、火山性地震は2022年10月以前に比べて多い状態で経過していますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～5、図6-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは70m以下で経過しました。今期間、噴気活動に特段の変化はみられず低調に経過しました。櫛ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

17日に福島県消防防災航空隊の協力により実施した上空からの観測では、沼ノ平付近及び山体北側火口壁噴気地帯に特段の異常は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図6-②～⑤、図7～9）

火山性微動が期間外の7月3日に1回、4日に1回発生しました。火山性微動が観測されたのは5月10日以来です。いずれも最大振幅はこれまで観測した火山性微動と比べて、特段大きいものではありませんでした。また、火山性微動の発生前後で、その他の観測データに変化は認められませんでした。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過し、低周波地震は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図6-⑥、図10、図12）

GNSS 連続観測では、2022年後半から山体膨張を示すわずかな変化が認められていましたが、2023年10月からは停滞しています。

○ 活動評価

GNSS 連続観測で2022年後半から認められていた山体膨張を示唆するわずかな変化は、2023年10月頃から停滞しています。一方で、2022年11月から火山性地震はやや多い状態で経過し、12月末には活発な地震活動がみられました。その後火山性地震は、2022年10月以前に比べて多い状態で経過しています。今後の火山活動の推移に留意してください。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次の火山活動解説資料（令和6年7月分）は令和6年8月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

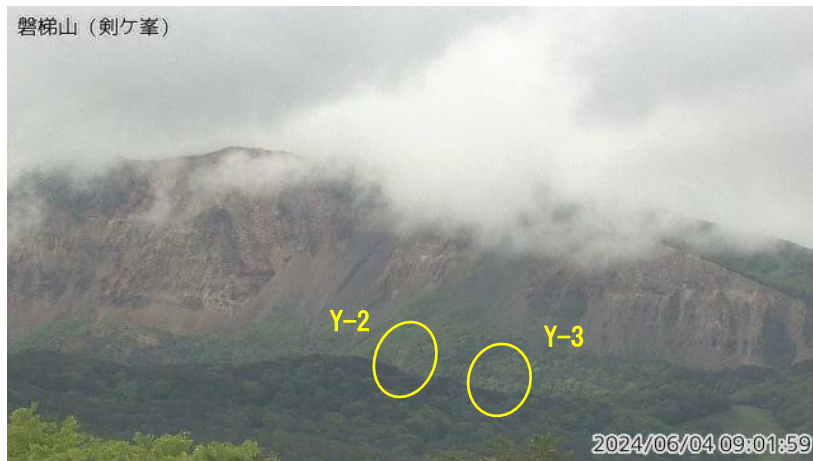


図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気状況（6月4日）

- ・ 剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・ Y-Oは山体北側火口壁の噴気の場所を示す記号です。

噴気の高さは70m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

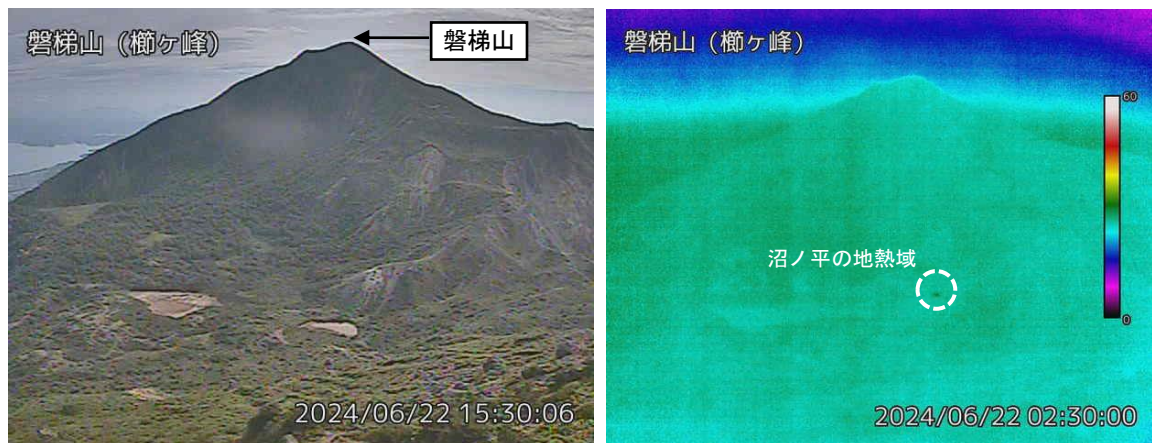


図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況と地表面温度分布（6月22日）

- ・ 櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の映像です。

噴気は認められませんでした。

沼ノ平の地熱域（白破線）に特段の変化は認められませんでした。

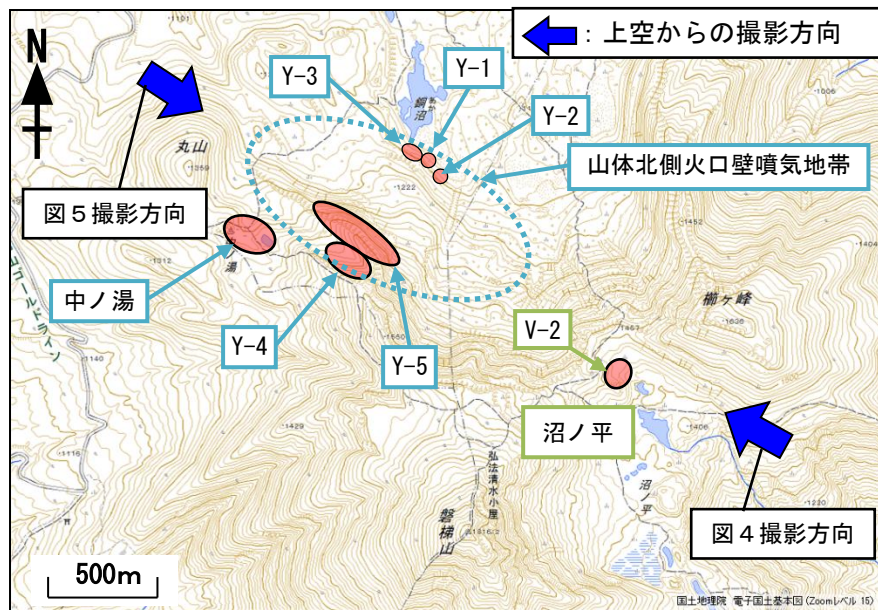


図3 磐梯山 噴気地熱域の分布及び上空からの写真撮影方向



図4 磐梯山 上空から撮影した沼ノ平付近の状況

沼ノ平付近に特段の異常は認められませんでした。



図5 磐梯山 上空から撮影した山体北側火口壁噴気地帯の状況

山体北側火口壁噴気地帯に特段の異常は認められませんでした。

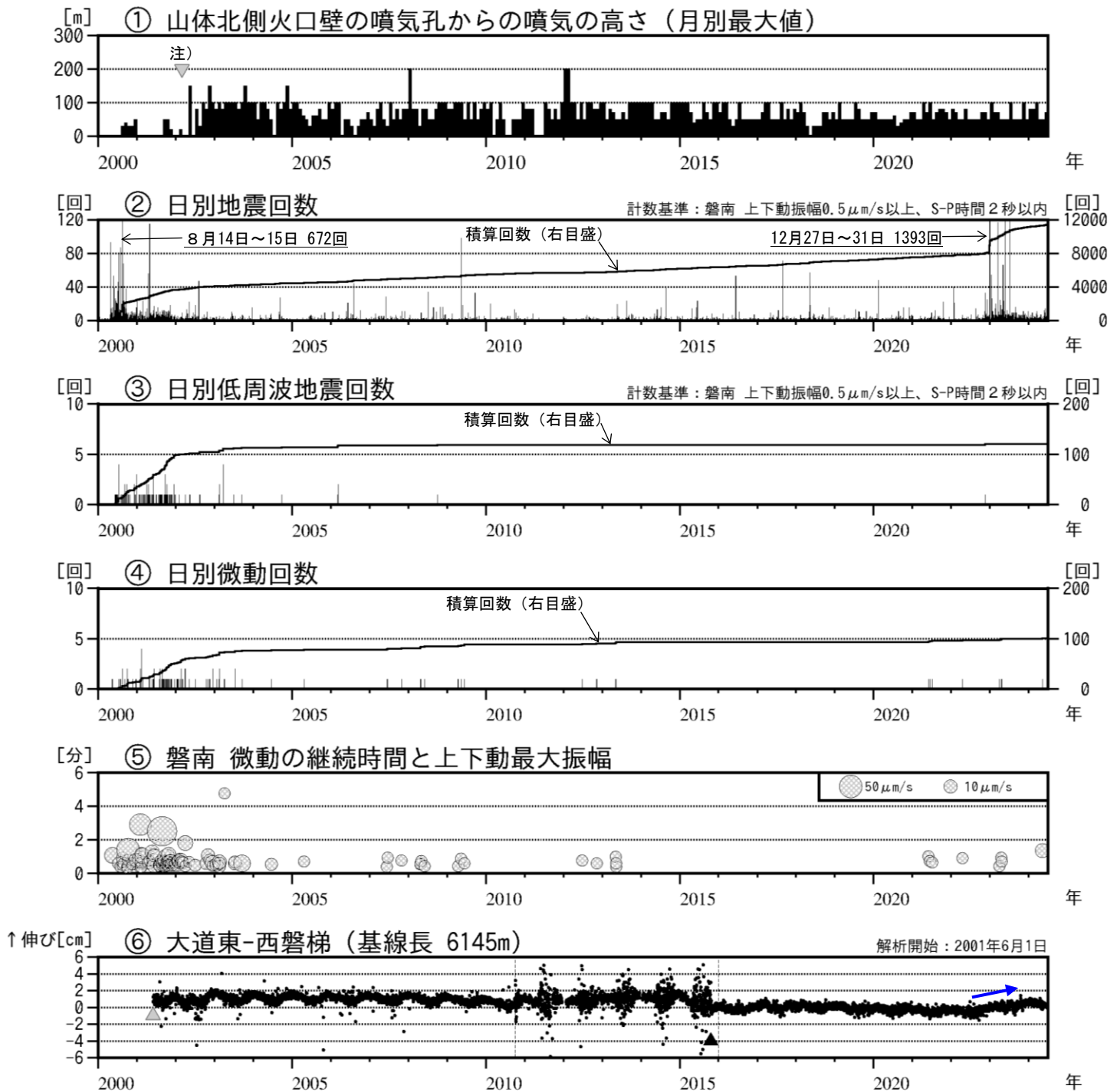


図6 磐梯山 火山活動経過図（2000年1月～2024年6月）

- ・⑥は図12のGNSS基線⑥に対応しています。
- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑥）。
- ・2024年4月に火山性微動の計数基準を見直し、2023年に発生した微小な振幅の火山性微動（4月22日20時38分頃、12月10日04時09分頃、12月12日17時57分頃の計3回）を計数から除外しています（④⑤）。

注）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

▲：解析開始を示します（⑥）。

▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑥）。

火山性微動が期間外の7月3日に1回、4日に1回発生しました。

火山性地震は今期間少ない状態で経過し、低周波地震は観測されませんでした。2022年11月から火山性地震がやや多い状態で経過し、12月末には活発な地震活動がみられました。その後火山性地震は、2022年10月以前に比べて多い状態で経過しています。

GNSS 連続観測では、2022年後半から山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められていましたが（青矢印）、2023年10月頃からは停滞しています。

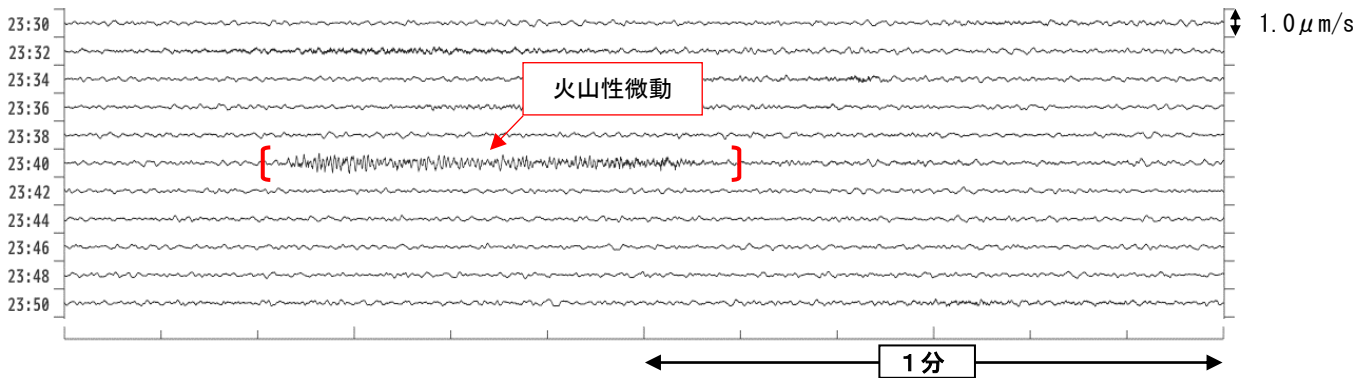


図7 磐梯山 裏磐梯高原観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
（2024年7月3日23時30分～23時52分）

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。

火山性微動が期間外の7月3日に1回、4日に1回発生しました。いずれもこれまで観測した火山性微動と比べて、特段大きいものではありませんでした。また、火山性微動の発生前後で、その他の観測データに変化は認められませんでした。

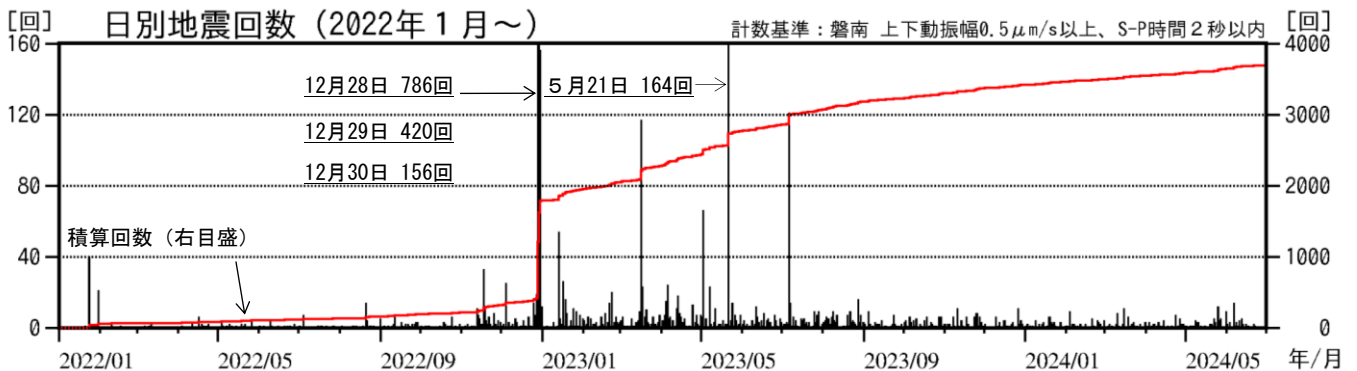


図8 磐梯山 地震回数（2022年1月～2024年6月）

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。なお、2022年11月から火山性地震がやや多い状態で経過し、12月末には活発な地震活動がみられました。その後火山性地震は、2022年10月以前に比べて多い状態で経過しています。

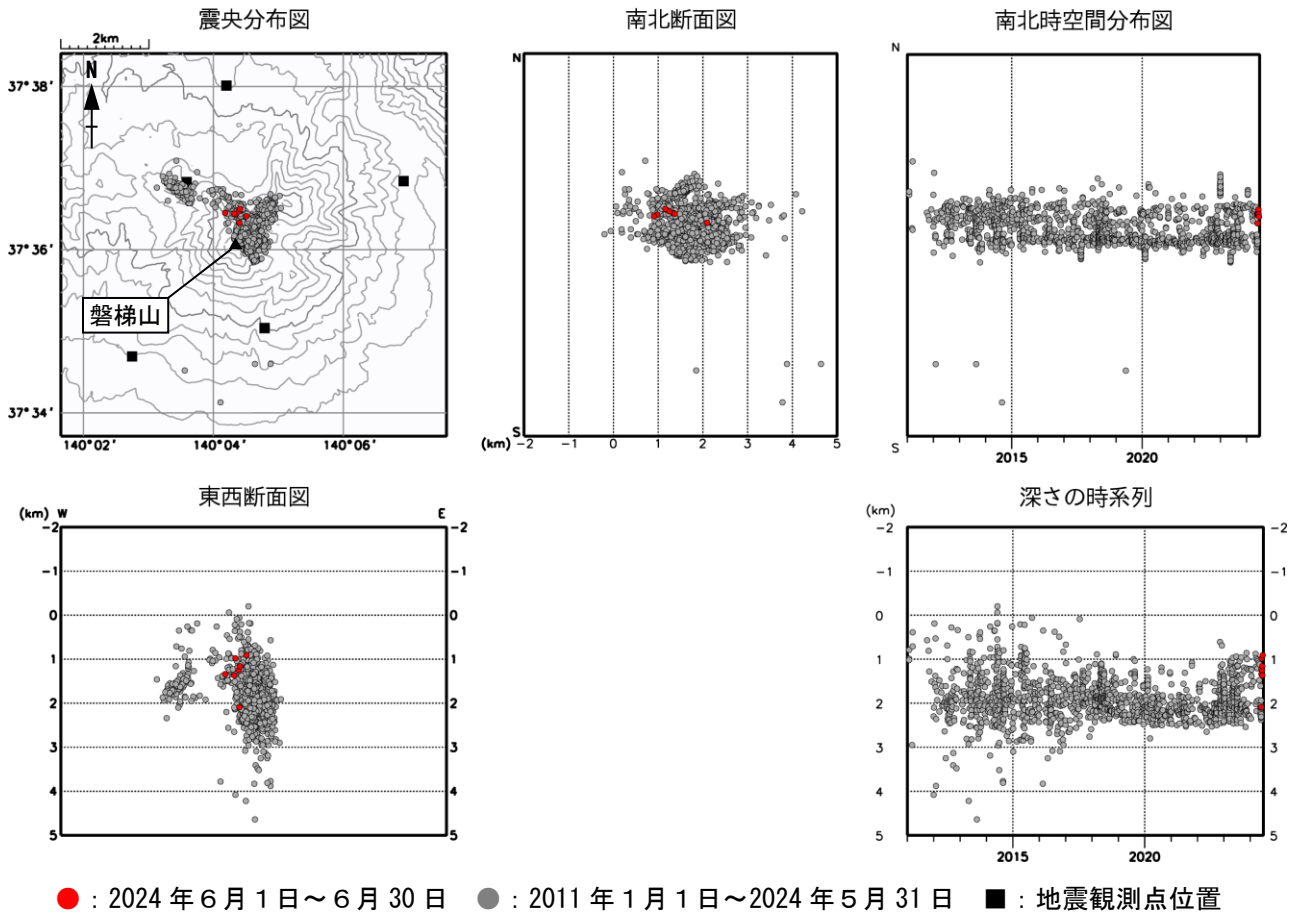


図9 磐梯山 震源分布図（2011 年 1 月～2024 年 6 月）

今期間、震源が求まった火山性地震は、主に山頂の北及び山頂付近の深さ約 1 km から 2 km の領域で発生しました。

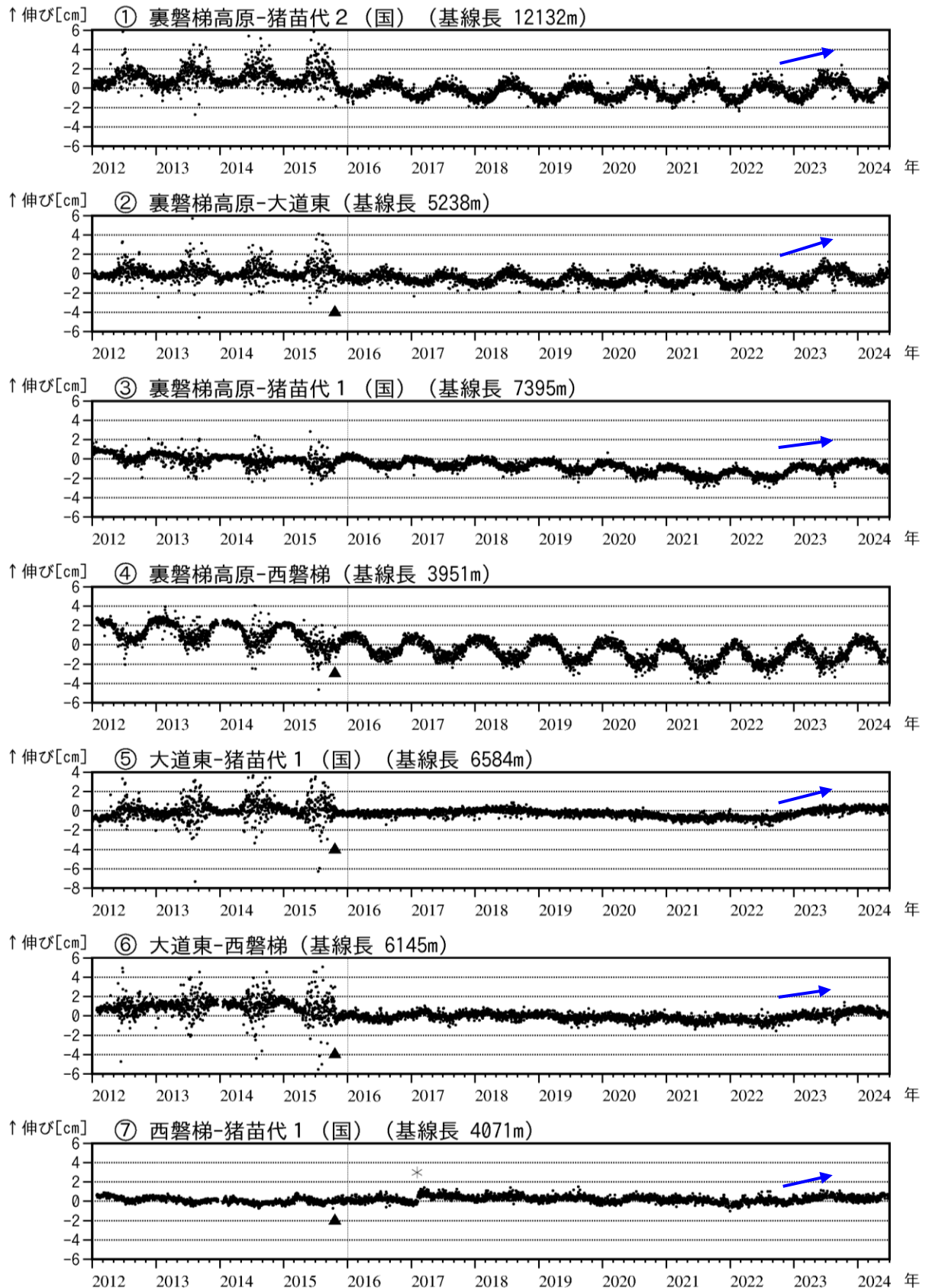


図10 磐梯山 GNSS基線長変化図(2012年1月～2024年6月)

- ・2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・①～⑦は図12のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- *：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS連続観測では、2022年後半から山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められていましたが（青矢印）、2023年10月頃からは停滞しています。

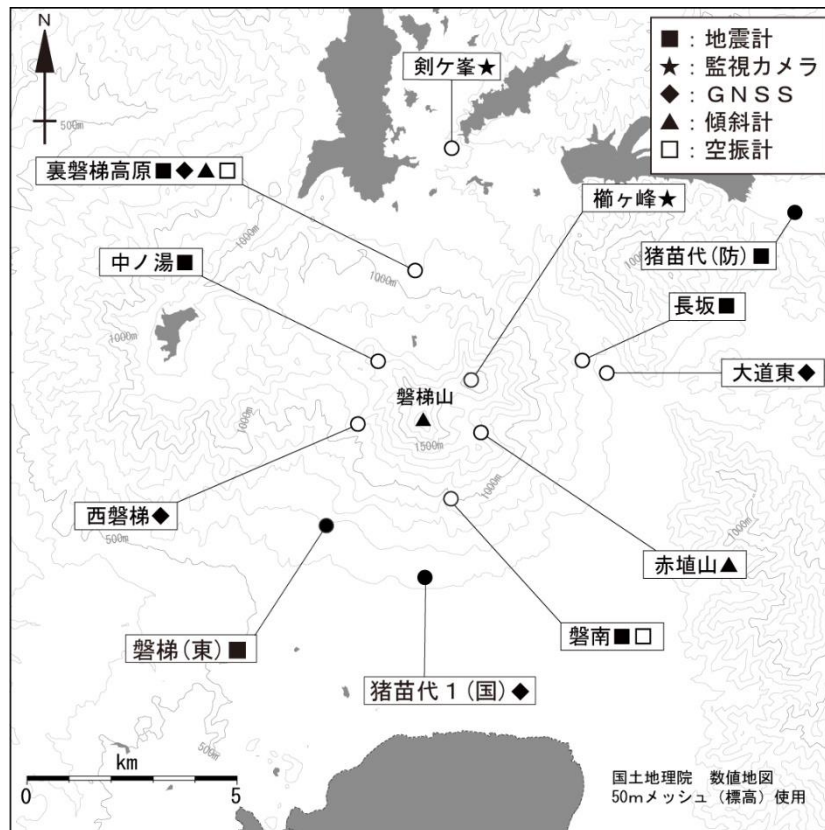


図11 磐梯山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

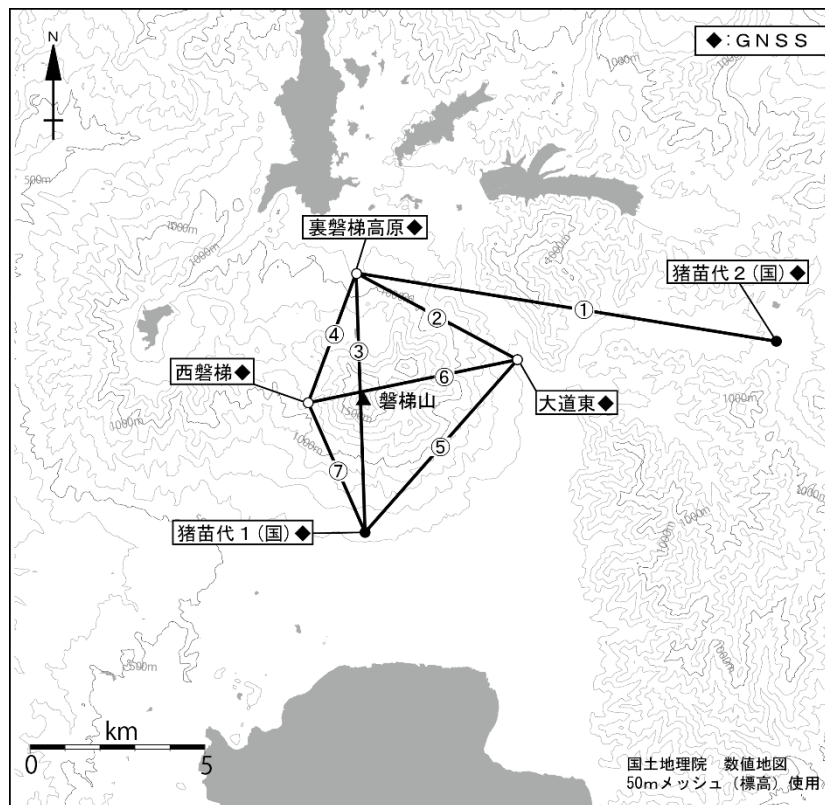


図12 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院